



Yamagata University **Annual Plan 2020**

山形大学 | 2020年度 行動計画

3つの使命

社会における役割・存在意義

- 地域創生
- 次世代形成
- 多文化共生



5つの基本理念

組織のあるべき姿

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

- 学生教育を中心とする大学創り
- 豊かな人間性と高い専門性の育成
- 「知」の創造
- 地域創生及び国際社会との連携
- 不断の自己改革

山形大学の新たな挑戦



It takes all the running you can do, to keep in the same place.「同じ場所に居るためには、全力で走らなければならない」

これは「鏡の国のアリス」に登場する赤の女王の言葉です。逆説的ですが、大学もまた同じで、社会や時代が大きく変わるなかで、大学が創造的な存在であり続けるためには、新たな課題への不断の挑戦が必要です。

山形大学は1949年の創設以来、さまざまな改革によって時代の波を乗り越え、教育・研究・地域貢献で多くの成果をあげて、10万人を超える有為な人材を社会に送り出してきました。令和の時代となり、大学を取り巻く環境はますます厳しくなる一方で、産業構造の変化やグローバル化を背景として、大学に対する社会の期待は一層高まっています。

今回、私が学長に就任し、理事・副学長とその分掌が変わりました。新たな体制のもとで、これからの6年間は、改革のスピードを緩めることなく機能強化を推進し、山形大学の更なる発展を目指します。特に次の3点を重視して、山形大学の経営に取り組みます。

人と人、人と社会のつながりを大切にする大学

社会の持続的な発展を先導する大学

山形の豊かな地域文化を活かし育む大学

山形大学の教職員と学生が一体となって取り組む目標は、3つの使命と5つの基本理念として明示されています。Annual Plan 2020には、これらの基本理念を実現するための具体的行動計画を示しました。どのような社会や時代でも、大学の本質は人が人を育てる「学校」であることを胸に刻んで、法人本部と小白川、飯田、米沢、鶴岡の4キャンパスが一丸となって新たな挑戦に取り組んで参ります。

山形大学長 **玉手 英利**

TAMATE Hidetoshi

CONTENTS



研究／社会連携／知的財産 担当

理事・副学長

飯塚 博 5



教育／入学試験 担当

理事・副学長

出口 毅 6



学生支援／EM・IR／広報 担当

理事・副学長

矢作 清 7



評価／病院／財務 担当

理事・副学長

根本 建二 8



総務 担当

理事・副学長

小島 浩孝 9



施設 担当

理事

瀬瀬 晃 10



国際交流 担当

副学長

林田 光祐 11



研究／社会連携／知的財産 担当

理事・副学長

飯塚 博

IIZUKA Hiroshi

専門は、工学＞機械工学＞設計工学＞材料強度学の分野です。特に、プラスチックやゴム系複合材料の強度と破壊に関わる分野の研究を実施してきました。ものづくり企業との連携の中で現れてきた研究課題を中心に、学生・企業技術者と一緒に基礎・応用研究を実施してきました。新しい研究課題との出会いのワクワク感、それに続く研究開発段階での集中した努力の繰返しが面白いところです。楽しく有意義な研究・社会連携活動を目指します。

2020年度 行動計画

PLAN 1

重点研究や研究拠点形成及び若手研究者の育成等に関する戦略を立て、魅力的な学術研究が持続的に展開できる仕組みを構築します。また、教員が安心して研究活動や産学連携等を遂行できるよう、研究倫理の向上やリスクマネジメント体制を整備します。

PLAN 2

科研費に関する支援体制を整備し、科研費の新規応募件数10%増(前年度比)を目指します。また、国際共同研究や主要ジャーナルへの投稿を奨励して、トップ10%論文を増やす仕組みを作ります。

PLAN 3

YU-COEの(S)拠点への昇格及び新たに4件以上の拠点形成を通して、研究分野を横断した教員間連携の拡大や国際的研究拠点の形成を支援します。

PLAN 4

産学官連携推進本部及びオープンイノベーション推進本部を強化して、包括共同研究や研究コンソーシアム形成を推進し、1件1,000万円以上の大型共同研究を20件以上受け入れます。

PLAN 5

地域と連携して文理融合のオープンイノベーション拠点を構築し、教育研究プロジェクトを新たに3件実施します。また、社会人の学びなおし機能を充実して、地域産業の潜在力向上に貢献します。



教育／入学試験 担当

理事・副学長

出口 毅

DEGUCHI Takeshi

1992年6月、学習心理学を専門とする教員として本学に着任しました。教育学部に、いわゆるゼロ免課程である総合教育課程が設置された年で、爾来、教育学部から地域教育文化学部への改組や大学院教育実践研究科（専門職学位課程）の設置などの大学改革に関わり、附属学校運営部長、地域教育文化学部長、副学長などを経験してきました。学生の入学から学位授与までの学びがさらに充実することを目指します。

2020年度 行動計画

PLAN 1

基盤教育における初年次教育のさらなる改善のため、これまでの教育効果の検証に着手します。また、データサイエンス、AIなど現代的な情報教育の実施に向けた検討を進めます。

PLAN 2

学部学生の自らの学びと振り返りの習慣を身に付けるため、基盤力テストを継続して実施し、結果を学生や教員にフィードバックして学習成果の可視化を定着させます。また、教学IRデータや分析結果を活用して教育カリキュラムの評価改善を行い、学修者本位の教育の実現に努めます。

PLAN 3

令和3年度の大学院改組に向けて、大学院生が社会のニーズに対応した豊かな人間力と高度な専門力を身に付けるため、大学院基盤教育機構を活用しての教育環境整備と教育改革に取り組み、共通科目9科目を発展させた文理横断型の基礎専門科目12科目程度を準備します。

PLAN 4

入学志願者の利便性と願書受付作業の効率の向上を目的に、一般入試に導入したインターネット出願システムについて、利用者や職員の意見を聞くなど、その検証を行います。また、利便性向上のため、令和4年度入学者選抜から、他の選抜方法への導入に取り組みます。



学生支援／EM・IR／広報 担当

理事・副学長

矢作 清

YAHAGI Kiyoshi

山形生まれ、山形育ち、5世代9人で暮らしています。山形大学に事務職員として40年あまり勤務し、医学部、経理部、人文学部、総務部等で医事、会計、情報、学務、総務等の業務に携わってきました。美しい山形で、大好きな山形大学が100年後も輝き続けられるよう、何事にも前向きに挑戦していきます。楽しく仕事をするをモットーに、皆さんと力を合わせて、学生たちが楽しく学べるキャンパス、教職員が生き生きと働ける職場づくりを目指します。

2020年度 行動計画

PLAN 1

学生の心身の健康を保持・充実させるため、アドバイザー教員、保健管理センター（保健室）及び障がい学生支援センターが連携して情報を共有し、個々の悩みに迅速に対応できる体制を一層強化します。また、その一環として学生相談のための支援アプリの開発を行い、試験運用を開始します。

PLAN 2

国内外におけるブランドイメージの向上を図るため、学生、教職員、卒業生など、山形大学に関わる2,020人を紹介することで、本学の魅力を発信する「山大2020プロジェクト」を展開します。また、学長定例記者会見、広報誌（みどり樹、大学案内、ぱれっと等）、ホームページ、SNS、動画等を活用し、明るく楽しい山形大学を発信します。

PLAN 3

教職員に対してe-learning研修及び標的型メール訓練を実施し、情報セキュリティに対する意識向上を図ります。また、他大学との連携強化のため、共同開講する授業を遠隔地でも受講できる情報機器を整備します。

PLAN 4

生徒、保護者、高校教員等の対象を絞った説明会、相談会、講演、出張講義並びに高校訪問によるアプローチを1,000校以上、本学の魅力・雰囲気を体験いただくために高校等から本学への訪問者数12,000人を目指します。また、多文化共生を推進するため、外国人留学生（学部・大学院含む）の志願者数10%増を目指し、説明会等の実施に取り組んでいます。

PLAN 5

本学の諸活動のうち、教育・研究・社会貢献等に関し、BI（Business Intelligence：データを動的に可視化する仕組み）を通じて経営判断に資する情報提供を新たに4件以上（財務経費、基盤力テストなど）行います。また、学内において従来、手動で行っていた業務を効率的に実施できるよう、ICTを活用した自動化の提案として教室配当システム、アンケート実施支援などを2件以上行います。

PLAN 6

「山形大学ファンドレイジング戦略（YU-FR）」に基づく「山形大学基金」の拡充と、本学校友会による「山形大学コミュニティ」の醸成・強化により、学生支援・教育研究支援・社会連携等の事業をさらに充実させるとともに、本学が持続的に発展するための基盤を構築します。【寄付金受入計画額：3,000万円】【校友会一般会員の新規加入者：50人】



評価／病院／財務 担当

理事・副学長

根本 建二

NEMOTO Kenji

盛岡市出身で、大学入学以来長く仙台に住んでいましたが、2006年に山形大学に着任しました。専門は放射線医学、特に“切らずに治す”がんの放射線治療ですが、この4年間は医学部附属病院の病院長も務めていました。病院以外に評価、財務も担当しますが、いままで医師以外の職業経験は全くありませんので、私個人のAnnual Planは「自分のミッションとその実現方法を理解する」ということにしたいと考えています。

2020年度 行動計画

PLAN 1

今年度実施される第3期中期目標期間の中間評価に対して適切に対応するとともに、第4期の目標・計画の策定を開始します。さらに、各種評価指標の進捗状況を可視化し、業務を効率的に行うための新たな仕組みを導入します。

PLAN 2

ゲノム解析に基づくオーダーメイド医療をさらに推進させるとともに、がんゲノムを含むがん医療について、県内病院と連携し、県内がん医療の均てん化を図ります。

PLAN 3

固定照射治療室における重粒子線治療の開始に向けて、重粒子線外来を設置、事前予約を開始するとともに、積極的に院内外に向けた広報を行います。

PLAN 4

健全な財政運営を行うため、財務業務の可視化・効率化を推進します。また、コピー用紙使用量を削減することを目標とし、コピー用紙使用量削減及び会計業務における電子決裁を推進するための課題の洗い出しを実施します。



総務 担当

理事・副学長

小島 浩孝

KOJIMA Hirotaka

この度、財務・施設担当から総務担当の理事・副学長を拝命いたしました、山形在住通算7年目、千葉県出身で山形とプロ野球M球団をこよなく愛する小島浩孝です。前任の阿部理事がこれまで築いてこられた実績を引き継ぎながら、玉手学長のリーダーシップの下、皆様の意見を大事にして、学生や教職員が明るく楽しく学業や業務に専念できるよう、総務の業務を通じて努力して参ります。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

2020年度 行動計画

PLAN 1

多様な人材の獲得・育成を目指すとともに、教員の意欲や能力を適正に反映した魅力ある新たな人事給与マネジメント制度を構築し、令和2年度内に採用者を決定します。

PLAN 2

キャンパス・ハラスメントのない適正な就労環境及び修学環境を確保するため、全職員を対象としたハラスメント防止に関する研修を実施し、キャンパス実施の研修を含め受講率100%を目指します。

PLAN 3

各課各室で労働生産性向上を目的とした取組を実施し、情報を共有しながら、業務の見直し・改善を行うとともに、管理職を対象とした研修の実施やペーパーレス化を推進・徹底するほか、定型業務の外注化等により、超過勤務手当の削減(過去3年平均10%減)等を図ります。

PLAN 4

今年度から施行する第2次山形大学男女共同参画基本計画の周知に取り組み、意識啓発のために男女共同参画セミナーを開催するほか、LGBT対応ガイドライン等の検討を行います。また、女性研究者を中心とした、ダイバーシティネットワークの構築・充実に取り組み、女性教員比率16%(前年度比1ポイント増)を目指します。

PLAN 5

リスクマネジメントをさらに強化・実効性あるものにすることを目的として、モニタリング実施体制及び関係規則等を見直します。



施設 担当

理事

纈纈 晃

KOKETSU Akira

「生活者発想」、「パートナー主義」を基盤としたビジネス構築を教わり、徹底した思いがあります。「粒ぞろいより、粒違い」を大切にしています。コミュニケーションの基本は「心に強く、伝えたいと思うものを創ること」と言い続けています。世界を意識すると日本がより気になり、そこでグローバルからグローバルへの路線変更も行いました。山大のフィールドで皆さんと一緒に、社会・未来を快適にする活動を行いたと考えています。

2020年度 行動計画

PLAN 1

本学の理念に相応しいキャンパス環境の整備充実を推進するため、各キャンパスのマスタープランについて、2019年度新たに策定したインフラ長寿命化計画を踏まえた見直しを行います。

PLAN 2

大学の財政基盤を強化するため、保有する不動産を戦略的な視点で検討し、有効活用の計画を1件以上策定します。





国際交流 担当

副学長

林田 光祐

HAYASHIDA Mitsuhiro

熊本で生まれ育ち、北海道で学び、山形に来て27年が経ちました。農学部で生態学をベースにした森林の保全管理について教育・研究を行っています。フィールドに出て山を歩くことが私の健康維持方法であり、研究のタネを見つける一番の近道なのですが、その時間を見つけるのが最近の悩みのタネです。地域と世界をつないで誰もが国際性を身につけられる大学にしていきたいと思っています。

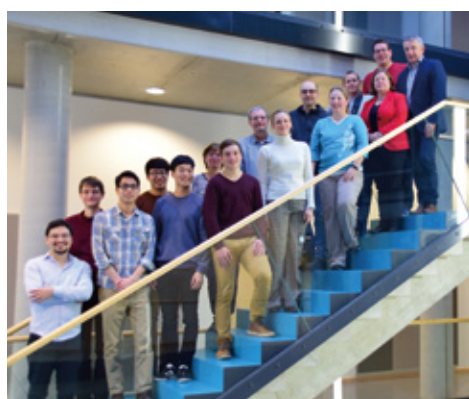
2020年度 行動計画

PLAN 1

山形県内高等教育機関の学生の意識の国際化と県内定着を図るため、県内の産学官が連携した留学プログラムを立ち上げ、2021年度からの派遣を行います。

PLAN 2

山形大学の多面的な国際化を図るため、「山形大学国際化のためのアクションプラン2018-2020」を9割以上達成します。





Yamagata University **Annual Plan 2020**

アニュアルプランは毎年度達成状況を検証します。
ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】山形大学役員会
【お問い合わせ先】山形大学 企画・財務部 企画予算課
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
Tel: 023-628-4190 Fax: 023-628-4849
e-mail: kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
【ホームページ】<https://www.yamagata-u.ac.jp>